

会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回東浦町子ども読書活動推進会議	
開 催 日 時	令和5年6月27日(火) 午後3時から午後4時30分まで	
開 催 場 所	東浦町中央図書館2階 大会議室	
出 席 者	委員等	浅井真司氏(委員長)、奥田英子氏(副委員長)、太田真理子氏、大島聡子氏、畔上美千代氏、祖母井綾乃氏、鷹見みゆき氏、松下玲子氏、尾方悦子氏
	事務局	庄子教育長、横井教育部長、佐東生涯学習課長、長谷川主事 (株)図書館流通センター 島津図書館長、大西副館長、平松サブ チーフ
議 題 (公開又は非公開の別)	1 令和5年度「東浦町子ども読書活動推進計画(第三次)」に係る計画書について(公開) 2 令和5年度「東浦町子ども読書活動推進計画(第三次)」に関する方針について(公開) 3 東浦町子ども読書活動推進計画(第四次)策定について(公開) 4 その他(公開)	
傍聴者の数	1名	
審 議 内 容	<p>◆生涯学習課長 傍聴について報告する。 会議成立の報告を行う。 委員の任期について説明する。</p> <p>◆教育長 (挨拶)</p> <p>◆生涯学習課長 委員へ自己紹介を求める。 (事務局職員及び委員が自己紹介を行う。) 令和5・6年度東浦町子ども読書活動推進会議の委員長及び副委員長の選出を行う。 事務局側の推薦により浅井氏に委員長を依頼する。 副委員長は、浅井氏の推薦により奥田氏を依頼する。 <委員長に浅井氏、副委員長に奥田氏として異議なし> 委員長に浅井氏、副委員長に奥田氏とすることを報告。</p> <p>◇委員長 (挨拶)</p>	

◆生涯学習課長

委員長に議事の取り回しを依頼する。
以降は委員長が議事を取り回す。

◇委員長

次第に従い議事を進める。議題1 「令和5年度東浦町子ども読書活動推進計画（第三次）に係る計画書について」を議題として、事務局からの説明を求める。

◆事務局

資料に基づき、各関連機関からの計画書取組内容について説明する。保育園・児童館・子育て支援センター、健康課、生涯学習課、小中学校、図書館の順番に報告を行う。

◇委員

保育園・児童館・子育て支援センターの計画報告を行う。

◆事務局

健康課、生涯学習課、小中学校、図書館の計画報告を行う。

◇委員長

事務局及び関連機関の報告を受けて、委員の質疑を募る。

◇委員

資料1のP13について、読書感想文に関する講座の講師を担当する立場から補足させていただく。東浦町は読書感想文コンクールが自由応募となっているが、図書館では読書感想文に関する講座を3講座開催し、手厚く支援を行っていることをアピールしたい。

新規講座として、「読書感想文の選び方講座」を開催する。読書感想文は楽しんで読める本では書きづらく、読書感想文を書くのに適した書ける本を選ぶということも重要であるということが、昨年度読書感想文講座を通じた反省点である。

新規講座は図書館指定管理者である(株)図書館流通センターの得意分野である本に関する知識を生かし、(株)図書館流通センターの職員が務める。今年度は、読書感想文の本の選び方から、書き方を知り、さらに磨きをかけてより良い読書感想文を書き上げるという、ホップ、ステップ、ジャンプの3段階支援を図書館講座として行う。

◇委員

ブックスタートについて、昨年度までは、4か月検診の対象者へ絵本の引換券を渡し、後日町内の関係施設で複数タイトルの絵本の中から1冊本を選んでもらい、プレゼントするという流れであった。

しかし今年度は、4か月検診時に1冊の決まったタイトルの絵本をその場で渡す方法へ変更になっている。1冊の決まったタイトルの絵本を渡す

よりも、複数の絵本のタイトルから好きな1冊を選んでもらうという方法の方が好ましいのではないかと。選べる本のタイトル数を複数に増やすことは可能か。

◆事務局

東浦町のブックスタート事業は、平成28年度に開始し、4か月健診及び1歳6か月健診時に絵本の引換券を渡していた。昨年度の4か月健診対象者は、4タイトルの絵本から好きなものを選べるようになっていた。年々見直しを図り、引き換え率を上げるため、ポスター掲示や健診時の絵本引き換え勧奨を行ったが、引き換え率が70%程度で止まってしまっていた。ブックスタート本来の目的は乳児期に本に触れるという点であるため、すべての健診対象者へ本が渡るように、4か月健診時については、引換券ではなく、直接本をお渡しする方法へ変更した。

渡す本のタイトルを1冊のみにしているのは、管理の面の事情があるからである。複数タイトルから選べる方法にすると、絵本の用意の面や、限られた健診時間の中での運用が難しいため、ブックスタート運用方法変更の初年度にお渡しする本のタイトルは1種類とした。

◇委員

ブックスタート4か月健診対象者へ配付する絵本のタイトルはこの先も変更しないのか。

◆事務局

今後、絵本のタイトルの変更はある。NPOブックスタートという組織がブックスタート推奨本を3年に1度選んでいる。推奨本を参考にして、東浦町でのブックスタート対象本も選書する。

◇委員

現場の声として紹介する。児童館には、はなはなベビーという小さい月齢の赤ちゃんが集まる日がある。4か月の乳児が来ると、ブックスタートの引き換えを行うが、昨年度は複数の絵本タイトルの中から1冊を選んでいった。選ぶ楽しさがあったが、今年度は決まった1冊のタイトルしかないため、選べることができず、兄弟がいるとすでに同じ本を持っているという声も聞く。

一方で、選べる本のタイトルがありすぎても、その中から1冊を選ぶとなると保護者の方も迷ってしまうという声があるため、選べる本のタイトルが2種類ぐらいあるとよいのではないかと。

◆事務局

ブックスタート絵本のタイトルについて補足させていただく。今年度については、4か月検診でお渡しする絵本のタイトルは1種類と決めて運用しているため、今年度中の変更は行わない。来年度の運用の際にはご意見を踏まえて検討させていただく。

◇委員長

議題1に関する質疑応答を締め切り、議題2「令和5年度東浦町子ども読書活動推進計画（第三次）に係る方針について」を議題として事務局へ説明を求める。

◆事務局

資料2に基づき、令和4年度に町内小学校3、4年生へ実施したアンケート結果について報告。令和5年度の子ども読書活動推進計画に係る実施方針について説明する。

◇委員長

事務局からの説明を受けて、委員の質疑及び意見を募る。

◇委員

昨年度の2月に行われた子ども読書活動推進会議にて、こちらの資料2のアンケート結果が示されていた。このグラフについて疑問がある。例えば「問1自分で読書することが好きですか」という問いについて「大好き、好き」と答えた率が20%台であるにも関わらず、「問4 1週間のうち3日以上読んでいる」子が50%以上で高数値。

本を読む子は多いのに、本を読むのが好きではないという矛盾した結果になっている。今までの過去のアンケート結果を見てみたら、令和2、3年度のアンケート結果と令和4年度のアンケート結果の傾向が真逆の回答になっている。

読書通帳の利用率を問うアンケート結果についても、よく使うと回答した率が60%以上と高数値である。小中学生について、本当にそこまで読書通帳が浸透しているのだろうか。集計した後のグラフ化した際に結果が反転していないか疑問に思った。令和2、3年度の結果と令和4年度の結果を比較して欲しい。

◆事務局

令和4年度のアンケートについては、初めて電子タブレットでアンケート集計をし、令和2、3年度については、アンケート用紙で集計したものである。再度結果を見直す。

読書通帳についてはコロナ禍によって、小学生へ読書通帳が行き渡らず、利用率が落ち込んだ時があった。昨年度については、小学生による図書館見学も再開したため、読書通帳の利用率が上がったことも考えられる。

◇委員長

議題2について質疑を締め切り、議題3「その他」について、事務局へ説明を求める。

◇委員

データの反転の件だが、設問の順番により、子どもたちが回答する際の流れが生まれるため、設問の順番によって、回答結果が多少左右されるこ

とがあると思う。設問の順番も考慮すべきである。

◆事務局

承知した。

◇委員長

議題2に関する質疑応答を締め切り、議題3「東浦町子ども読書活動推進計画（第四次）策定について」を議題として事務局へ説明を求める。

◆事務局

資料3に基づき、第4次計画の策定について、スケジュール及び方向性について説明する。

◇委員長

事務局からの説明を受けて、委員の質疑及び意見を募る。

◇委員

計画についてではないが、子育てをする保護者の立場から共有する。

子育てをする中で、図書館をよく利用したが、子どもが成長して騒いでもしまうことがあり、周りへの迷惑が気になり、東浦町中央図書館の利用を控えるようになってしまった。そのため、多少子どもが騒いでも差支えない雰囲気がある他市の図書館を利用するようになった。

子どもも気兼ねなく利用でき、過ごしやすい環境の図書館であれば、もっと積極的に東浦町中央図書館のことも利用できるようになる。

◇委員

資料3において、「デジタル社会に対応した読書館環境の整備」という記載があるが、電子図書館とはどのようなものか。

◆事務局

昨年度の4月から当館でも電子図書館のサービスを開始した。電子図書館は図書館に来なくても、ネット環境があれば、読みたい本の貸出返却及び閲覧することができ、電子タブレット、スマートフォン、パソコンで利用できるものである。

◇委員

夏休みや冬休みの期間や休日に高学年の子どもたちへ電子図書館の使い方を教える講座を開くとよいのではないか。電子図書館の使い方を周知する努力も必要であるのではないか。

◇委員長

先日の図書館研究部会にて、東浦町生涯学習出前講座にて、電子図書館の使い方講座を実施している旨紹介されていた。行政が展開する事業の一つで、希望する学校へも図書館の職員が出向いて電子図書館の使い方を教えてくれるものである。

◇委員

デジタル社会への対応とあるが、電子図書館は図書館へ来なくてもネット上で読書ができるものである。その一方で図書館への来館は必要としないため、来館率は下がるのではないか。

来館率を上げるという考えとは矛盾すると思うため、来館者を少しでも増やしたいのであれば、電子図書館の使い方講座も図書館でも開催したらよいと思う。

◇委員

電子図書館も使い方次第で可能性が増える。調べごとがあるときは、電子図書館を利用すると、ネットも使用できる点が電子図書館の利点である。一方、読みたい本が決まっている場合は直接図書館へ来ると、求めていた本以外の本にも目を向ける機会があり、興味を持って視野を広げられるところが、図書館の利点である。

図書館及び電子図書館の両方の利点に応じて、使い方を選択すると良いと思う。図書館では、本の表紙が見えるように面展示を行っていて、大変良い取り組みである。この様な取り組みを継続して欲しい。

◆事務局

図書館の成果指標は来館者数で図っていた。東浦町の総合計画でも図書館の成果指標は、来館者数の目標を15万8千人としていた。現状、来館者数の目標達成は難しく、過渡期にある。

コロナ禍で社会のデジタル化が進んだことにより、図書館の在り方についても変化してきており、国からも図書館におけるDX推進の推奨がなされている。図書館に行かなくても本が選べるという世の中の流れが進んでいる。一方で、図書館の良さはブラウジング機能を持つ点であり、図書館の存在意義は来館者数のみでは測れない時期になっている。子ども読書におけるアンケートの設問についても、世の中の流れに合った内容にしていきたい。

◇委員長

議題3について質疑を締め切り、議題4「その他」について、事務局へ説明を求める。

◆事務局

議題4は特になしを報告する。

◇委員長

他の意見がないことを確認し、議事の終了を宣言する。

◆事務局

事務連絡として、次回の会議は9月に予定していることを案内。挨拶をして会議の終了を宣言する。